



# 川崎南支部だより

第505号 (平成28年11月発行)

発行者  
(公社)神奈川労務安全衛生協会  
川崎南支部  
川崎区榎町5-13小林ビル101  
電話 044-221-9082  
FAX 044-221-9083  
E-mail kawaminami@roaneikyo.or.jp  
編集 広報委員会

## 第75回 全国産業安全衛生大会 2016 in 仙台

平成28年度(第75回)全国産業安全衛生大会が10月19日(水)から21日(金)の日程で、杜の都仙台市の“仙台体育館”を中心に、全国から多数の安全衛生関係者の参加のもと開催されました。

1日目の総合集会では、仙台フィルハーモニー管弦楽団によるアトラクションで開会が盛り上げられました。

初めに、労働災害、4月に発生した熊本地震、たび重なる台風の自然災害で不幸にして命をなくされた方々の冥福を祈り、参加者全員で黙祷が捧げられました。

開会式では、主催者代表による開会の辞、大会式辞に続いて、厚生労働大臣(代読)、開催地の宮城県知事、仙台市長などの祝辞、さらに(公社)宮城労働基準協会会长のご挨拶があり開会式を終了しました。

開会式に引き続き、全国から92名の皆さまが受賞された、中災防会長賞、顕功賞、緑十字賞の表彰式が行われました。皆様の長年に渡る、安全衛生活動とその貢献が評価されたものです。

第1部の最後は、“労働災害のない安心して働く職場環境を実現するために、安全衛生をめぐる多様な課題に総合的に対応すべく、安全と健康を守る現場力の強化を柱として、すべての関係者が一丸となって取り組むことを誓う”との大会宣言があり全員一致で採択されました。

第2部では、厚生労働省労働



川崎南支部からの参加者

基準局の安全衛生部長より、“労働衛生行政の動向”と題して講演がありました。内容は、1. 労働災害の動向、2. 取り組んでいただきたい事項、3. 労働災害の防止のため、4. 結びでした。

平成27年度の労働災害での死亡者数は初めて1,000名を切り972名でした。労働災害件数(休業4日以上)は長期的には低下傾向にあります。未だに60,000人以上の方が被災されています。建設業、第3次産業、製造業、陸上貨物業など業種別の重点課題の展開、安全管理体制の強化、効果的活動の充実等の要請がありました。

引き続き、“故郷と復興への思い”をテーマに宮城県女川町出身の俳優・歌手の中村雅俊氏と福島県喜多方市出身のフリークリエイターの唐橋ユミ氏によるフリートークがあり、東日本大震災の復興への思いを話されました。

2日目・3日目は、労働災害

防止に関するテーマ毎に5会場に別れ、リスクアセスメント／マネジメントシステム、安全管理活動、機械・設備等の安全等。そして今回、新たに防災危機管理分科会が追加された12の分科会に分かれ、全国の団体、企業等から270題以上の事例・研究発表、シンポジウム、パネルディスカッションが開催されました。参加者個人の希望するプログラムを多くの関係者が公聴されていました。防災危機管理分科会では、東日本大震災の教訓から企業、行政、研究機関の果たすべき役割を探るシンポジウム。「東日本大震災への対応」—初動の取り組みと復興の現状—、企業の現場からの報告等、貴重な報告がありました。

全ての関係者が心を新たにし、安全・健康・快適職場を目指して英知と力を結集し、全力で邁進する事を誓った有意義な大会でした。

(記 広報委員)

## ～川崎南労働基準監督署からのお知らせ～

ストレスチェックをどのように実施すれば良いかお悩みの事業者の方へ

### 厚生労働省版ストレスチェック実施プログラム をご活用していただくことで、簡単に実施することができます

#### 厚生労働省版ストレスチェック実施プログラム（無料ツール）

- ストレスチェックの受検、結果出力、結果管理までを一括で実施できるプログラムです。

厚生労働省ホームページから無料でダウンロードいただけます。

→ <http://stresscheck.mhlw.go.jp/>



「厚生労働省版ストレスチェック実施プログラム」  
ダウンロードサイト



- プログラム利用のお問い合わせは、専用のコールセンター（フリーダイヤル）でご案内します。

電話番号 0120-65-3167（フリーダイヤル）

受付日時 10:00~17:00（土・日、祝日、12月29日~1月3日を除く）

#### ストレスチェック制度サポートダイヤル

- サポートダイヤルでは、ストレスチェック制度に関するお問い合わせ（事業場における実施方法、実施体制など）に専門家がお答えします。

電話番号 0570-03-1050（通話料がかかります）

受付日時 10:00~17:00（土・日、祝日、12月29日~1月3日を除く）

#### 働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト「こころの耳」

- ストレスチェック制度をはじめとするメンタルヘルス対策全般に対応します。

→ <https://kokoro.mhlw.go.jp/>



検索



厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

労働安全衛生法の改正により、労働者数50人以上の事業場において、平成27年12月から、年1回のストレスチェックが義務付けられています。



**平成28年11月30日までに、初回の  
ストレスチェックを実施する必要があります。**

<ストレスチェック制度の実施手順>

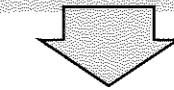
**11月30日まで  
に実施する必要**  
※結果通知や面接指導の実施  
までは含みません。

ストレスチェック及び面接指  
導の実施状況の報告 ※義務

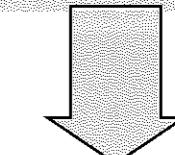
**労働基準監督署に  
実施結果報告書  
を提出**

※提出時期は、各事業場の事業  
年度の終了後など、事業場毎  
に設定して差し支えありません。

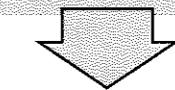
衛生委員会の開催（実施方法など社内ルールの策定）



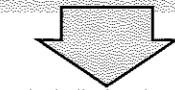
ストレスチェック（年1回）の実施



本人に結果を通知

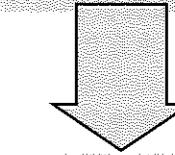


医師の面接指導の実施

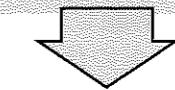


集団分析 ※努力義務

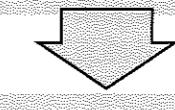
個人の結果を一定  
規模のまとまりの  
集団ごとに集計・  
分析



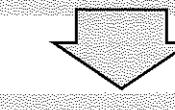
医師から意見聴取



就業上の措置の実施



職場環境の改善



「うつ」などのメンタルヘルス不調を防止

#### 《ストレスチェックの実施までのポイント》

- 「メンタルヘルス不調の未然防止のためにストレスチェックを実施する」旨の基本方針を、まず事業場内に明示しましょう。
- 衛生委員会で、ストレスチェックの実施方法について話し合いましょう。
- 社内規程として明文化して、すべての労働者にその内容を知らせましょう。



衛生委員会では、ストレスチェックの活かし方を考えるとともに、①いつ・誰が・どんな質問表を使  
ってストレスチェックを実施するか、②どんな方法でストレスの高い人を選ぶか、③面接指導の申出は誰  
にすれば良いか、④面接指導は産業医又はどの医師に依頼して実施するか、⑤集団分析はどんな方法で  
行うか、⑥ストレスチェックの結果は誰が・どこに保存するのか、等について話し合います。

## 日米の安全文化の違いを体験した視察研修

(米海軍横須賀基地と陸上自衛隊第31普通科連隊の見学)

### 今回の視察研修会の開催について

9月20日、支部の役員会メンバーと事務局そして港湾協川崎支部とで米海軍横須賀基地(以下ベース)と陸上自衛隊第31普通科連隊の武山駐屯地の視察研修に行ってきました。当日々台風16号の接近でいにくの雨天でしたが、貴重な経験が出来ましたので、以下に紹介します。

米海軍横須賀基地内の視察をお願いしたところ、何とか視察研修を設定して頂きました。参加者数に制約がありましたので、結果として総勢14名で視察に行ってきました。また今回の視察研修の目的が「日米の安全文化の体験」でしたので、午後からは川崎市危機管理室の紹介で、同じ横須賀ですが三浦半島の反対側にある陸上自衛隊武山駐屯地にも足を延ばしました。

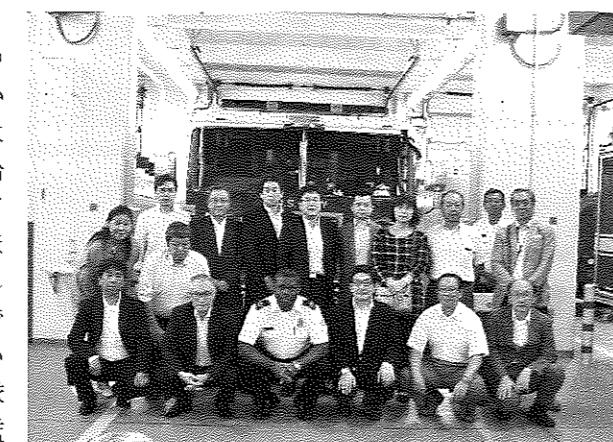
### 米海軍基地の見学

ベース内への入構に際してはパスポート等の国籍・身分を証明する資料の提示が求められ、ベース内は日本ではないという単純なことに気づかされました。手続を無事に終えた後、第1管区隊長の乗る車の先導(艦船の近く等余計な場所に近づかないよう)により、マイクロバスに乗車したままベースの中を



米海軍横須賀基地内の将校クラブでの昼食

見学しました。いにしへこの時期(4月から11月)は米海軍の艦船が訓練に出でおり港にはほとんど停泊していました。向かいの海上自衛隊の基地には艦船が停泊していました。



米海軍横須賀基地の消防署内の集合写真  
前列左から3人目が訓練課チーフ

### 陸上自衛隊第31普通科連隊の見学

午後からは時間調整を兼ねて三浦半島の海岸沿いを廻って、陸上自衛隊第31普通科連隊が駐屯している武山駐屯地(以下駐屯地)に向いました。第31普通科連隊は即応予備自衛官を主体としたコア部隊で、簡単な駐屯地内の紹介と3.11の東日本大震災に自衛隊が出動した時の記録映像を見せて頂きました。あれから丸5年も経った今でもその記憶は鮮明で、特に午前中に米海軍を尋ねたこともあります。あの有名なトモダチ作戦の内容は、我々が報道で知った以上なもので感銘を受けました。

まさに異なる装備、運営システムを有するにもかかわらず、日米の強い絆による震災後の活躍の成果を感じました。

ブリーフィングの後、建屋外に展示されている特殊車両等を見学し、その後手渡されたヘルメットを被り、陸自の2台の高機動車に体験試乗し駐屯地内を案内して頂きました。

### 終わりに

今回の目的は日米の安全文化の違いと謳ったものの、前述のように米海軍と自衛隊は広い意

味での安全文化に違いがあるものの、災害派遣を例にとるまでもなく、我々の生命・財産を守ってくれるという方向性に違いはないということを実感しました。逆に公的機関に依存する我々の方に課題があるのかもしれません。

今回は参加したメンバーに息子さんが自衛隊に勤務されている方もおられたこともあり、終了後には種々意見を交換しても充実した視察研修となりました。

最後に今回の企画に応えて頂いた米海軍横須賀基地と陸自武山駐屯地の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

(川崎南支部 役員会)

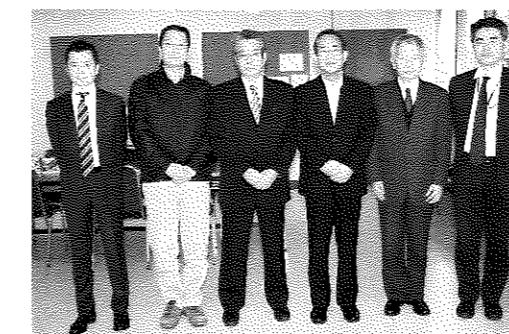


武山駐屯地内の74式戦車の前での集合写真



### 部会紹介

## 労働衛生部会です!!



こんなにちは、労働衛生部会です。

労働衛生部会の幹事は、いずれも京浜工業地帯で操業する各種製造業において労働衛生を担う方6名が集まって活動しています。

当部会では、健康確保、職業性疾病防止を推進するため、製

造部門で働く人が粉塵や有害・危険物から身を守り、健康で明るく働くために、労働安全衛生法に基づいた「粉塵作業特別教育」(10月)や「有機溶剤作業従事者安全衛生教育」(11月)の運営を主な活動としています。

それぞれの教育では専門的な知識を踏まえた講師がテーマ毎に講義を担当し、最新の法改正や安全衛生のトレンドを取り入れ、業務推進の一助となる様取り組んでおります。

これらの教育の他、地区産業

保健連絡協議会メンバーとして「健康保持増進研修会」(2月)を開催し、衛生管理活動の一端を担っております。

私たち幹事一同は部会活動を通してコミュニケーションを図り、効果的に充実した教育を目指しております。是非会員各社様の労働衛生向上のため、教育への参加と部会活動にご支援、ご協力をお願い致します。

また、労働衛生管理活動をより一層促進させようとする各事業所の当部会へのご入会も併せてお願い申し上げます。

(労働衛生部会)

## 川崎南支部行事予定

開催日	曜日	開催時間	内 容	開催場所	募集人員
平成28年12月6-7日	火・水	09:15	職長教育	川崎市教育文化会館	80名
平成29年1月19-20日	木・金	10:00	安全管理者選任時研修	川崎市教育文化会館	80名
平成29年1月24日	火	12:45	安全祈願祭	稻毛神社	役員
"	火	13:30	経営者セミナー	川崎日航ホテル	100名
"	火	17:15	新年賀詞交換会	川崎日航ホテル	100名

## 川崎市労働災害防止研究集会

去る10月31日(月)、川崎市産業振興会館において、川崎市労働災害防止研究集会(川崎市主催、川崎南・川崎北労働基準監督署、(公社)神奈川労務安全衛生協会川崎南・川崎北支部等の市内災防団体の協賛)が開催されました。

この研究集会は、川崎市内各事業所の心身の健康づくりや環境づくり等を含め、労働災害をなくすことを目的に毎年開催され、川崎市が独自に実施しており全国でもめずらしいもので、今年で52回目を迎えました。

川崎市の経済労働局長の開会挨拶に引き続き、第1部の講演会では、「JX-ENEOS サンフラワーズから見る 勝つ組織づくり」と題して、女子バスケットボールで全日本選手権5連覇中のJXエネルギー(株)女子バスケット部「JX-ENEOS サンフラワーズ」の高橋部長が講演されました。



特別講演(高橋 講師)

優勝を継続しているチームを率いた実績に基づき、トップレベルの成績を維持するためには、選手の育成、強化のために何が必要か、強い組織を構築するには何が重要かという話を拝聴し、例えば事業所の安全成績を高いレベルで継続するには何が必要で重要なかというヒントになり、とても興味深い講演でした。

第2部では事例発表会があり、川崎南支部会員事業所からは東燃化学(同)川崎工場の

ペーミットオーディット川村リーダーから「工場内保全工事における作業許可システムの監査」と題した事例発表が行なわれました。



事例発表者(東燃化学 川村さん)

内容は専任の監査組織による工事の作業許可システムの監査活動の紹介で、その活動内容もさることながら、指摘件数、作業中断件数が目に見えて減少したという活動の成果、監査を通して



功労者表彰(林さん)

得られた知見等を紹介してもらい、とても参考になりました。

第3部では団体・個人の表彰式があり、川崎南支部の事業所からは、㈱日本触媒川崎製造所が功労団体として、また前支部長代行の東芝マイクロエレクトロニクス㈱の林さんが功労者としてそれぞれ川崎市長から表彰されました。また川崎市労働災害防止標語入選作品の部では、応募総数8,962点の中からJFEテクノリサーチ㈱の小原さんが最優秀作品賞を受賞されました。

研究集会の最後には、主催者である川崎市の福田市長、協賛団体を代表して川崎北労働基準監督署長が閉会の挨拶をされました。



功労団体表彰  
(㈱日本触媒 川崎製造所 亀井執行役員所長)

川崎市労働災害防止標語 表彰作品

**最優秀作品**

JFEテクノリサーチ㈱ 小原 篤氏

・JFEテクノリサーチ㈱ 谷野 健一郎氏

味の素(株)川崎事業所 遠藤 裕子氏

富士電機(株)川崎工場 川上 吉祥氏

**「災害は小さなヒヤリの積み重ね 基本に戻つて 安全確認」**

**「見落とすな!**

**「慣れ」に隠れたりリスクの芽**

**「慌てず急がず落ち着いて かかる時間に大差なし」**

**「思い込みあなたを危険に 誘い込み」**